

神の国はどこに ルカ 17:20-21	2026. 8. 16、丘の上、NO. 780 春日部福音自由教会 山田豊
----------------------------	--

私の母親が、上越を出て、当時私たち夫婦が住んでいた東岩槻の家に着いた時、「あ〜、やっと着いた、ゴクラクゴクラク」と言いました。そのあととっさに「あれ？『テンゴクテンゴク』と言わなきゃいけないね〜」と言い直しました。お寺に生まれた母でなくても、ついつい口に出してしまう言葉ではないでしょうか。

最近の酷暑で、今は燃えるような地獄だ、とニュースで言っていたように思います。人は安らかで落ち着いていられるところ、まさに天国のようなところ、エアコンのきいた桃源郷のようなところを求めるのではないのでしょうか。しかしそのようなところは、どこにあるのでしょうか？

聖書が語る神の国は、天国とは同じ意味ではありませんが、神がご支配しておられる領域を示す言葉です。時に、神の国は将来のことである、この地上のことではなくはるかかなたのどこかにある、と思ってしまう。

「神の国はいつ来るのか？」と問うたパリサイ人に、イエスは答えます。「神の国は、あなた方のただなかにある！」このイエスのお言葉は、なかなか面白いですね。これを禅宗的に言えば、「仏はどこにおられるのか」と問う者に「あなたの心こそが仏である、仏心である」と答えるようなものかな、と思ってしまう。神の国は、最も身近な所にあるのです。

福音書によると、イエスは神の国はすぐ近くにあると、言っておられるように思います。公生涯の最初には、「時が満ち、神の国は近くなった。悔い改めて福音を信じなさい。」(マルコ 1:15)と語っています。私たちのいるこの世界、あなたのいるところがたとい理不尽なことが起きるようなあってもなお、神がおられるのです。

本日は讃美歌 90 番「ここも神のみくになれば」を歌います。3 節の「よこしま暫しはときを得とも、主の御旨のややに成りて」というのは、悪が栄えるように見えても最後は神の計画が成るという強い信仰を支える箇所であり、私たちに希望を与える讃美歌となっています。

イエスが来られたあの 2000 年前こそが、神の国の到来が目に見えて明らかにされた時でした。そして今は、その主イエスが再び来られ、神の国を完成させてくださることを待ち望む時です。たといそこに苦難があっても神がともにいてくださる、なぜなら、ここもまた神の国であるからです。この地上で神様に従って生きることが、ここでできるのです。

引用聖句

マルコ 1:14-15 イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べ伝えて言われた。「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」

マタイ 12:28 しかし、わたしが神の御霊によって悪霊どもを追い出しているのなら、もう神の国はあなたがたのところに來ているのです。

マルコ 10:15 まことに、あなたがたに言います。子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに入ることはできません。」

伴天連追放令

- ・日本ハ神國たる處、きりしたん國より邪法を授候儀、太以不可然候事。
- ・其國郡之者を近附、門徒になし、神社佛閣を打破らせ、前代未聞候。國郡在所知行等給人に被下候儀者、當座之事候。天下よりの御法度を相守諸事可得其意處、下々として猥義曲事事。
- ・伴天連其智恵之法を以、心さし次第二檀那を持候と被思召候へバ、如右日域之佛法を相破事前事候條、伴天連儀日本之地二ハおかせられ間敷候間、今日より廿日之間二用意仕可歸國候。其中に下々伴天連儀に不謂族申懸もの之ハ、曲事たるへき事。
- ・黒船之儀ハ商買之事候間、各別に候之條、年月を経諸事賣買いたすへき事。
- ・自今以後佛法のさまたけを不成輩ハ、商人之儀ハ不及申、いつれにてもきりしたん國より往還くるしからず候條、可成其意事。

已上

天正十五年六月十九日

朱印

概略

1～3 条では、キリスト教を邪宗と断じ、大名による布教を禁止し、宣教師の国外退去を命じた。

4～5 条では、貿易船と商人の往来は認めている。

秀吉の思いには、相反する二つのことがあり、この追放令は徹底されなかった。高山右近は領地を没収されたが、死罪は免れ、前田利家の客将となって金沢に移住した。いったん海に出た宣教師も、ほとぼりが冷めると戻ってきたようである。本格的なキリシタン弾圧は、1596 年(慶長元年)から。

キリシタン弾圧がさらに厳しくなるのは徳川家康の時代になってから、特に 3 代将軍家光の時代からである。